

Arcserve UDP v6.5 新機能ガイド

Arcserve UDP v6.5 の新機能

Arcserve UDP v6.5 は、クラウドをリモートサイトとして活用したリストア時間不要の事業継続機能や、バックアップデータの健全性を自動的に確認し、SLA レポートとして可視化する機能、さらに Windows Server 2016 を始めとする新たなプラットフォームへの対応などを新機能として搭載しています。クラウドが本格的な実用段階に入った昨今、クラウドを活用した迅速な災害対策、より確実に復旧するためのバックアップ運用が、企業の事業継続にとってさらに重要な要件になっており、Arcserve UDP v6.5 を導入いただくことで、簡単、低コストでこういった要件に対応できます。

リモート DR サイトとして Amazon Web Services (AWS) EC2 を活用

バックアップデータからあらかじめ仮想マシンを作成しておくことで災害に備える仮想スタンバイ機能が、AWS EC2 上で利用可能になりました。仮想スタンバイによってリストア時間が不要になるため、業務サービスを AWS EC2 上ですぐに再開できるうえ、平常時は仮想マシンが稼働しないため、低コストで災害対策を実現できます。

バックアップ データの健全性を確認するアシュアードリカバリ

バックアップ データの破損に気づかずバックアップ運用を継続していると、いざという時に正しく復旧できない事態が発生します。アシュアードリカバリは、バックアップしたデータを本番データと同じ状態で自動的に確認できるため、いざという時に復旧できないといった事態から解放されます。

Windows Server 2016 のサポート

Windows Server 2016 を、Arcserve UDP のすべてのコンポーネントでサポートします。Windows Server 2016 が稼働する物理サーバや Hyper-V 仮想環境、またはその混在環境のシンプル・簡単、かつ統合的な保護が可能です。SQL Server 2016、Exchange 2016、Active Directory などのアプリケーションのオンラインバックアップにも対応できます。

Office 365 (Exchange Online) の柔軟な保護

クラウド上の Office 365 のメールデータを安全に保護できます。メールデータをオンプレミスにバックアップして保管できるだけでなく、完全に削除したメールボックス、予定表、タスクなど、各アイテム単位で柔軟に復旧できます。メールボックスを指定してバックアップするフィルター機能により、バックアップ時間の短縮、ネットワークの負荷軽減が可能です。

目標復旧ポイント (RPO) と目標の復旧時間 (RTO) を可視化する SLA レポート

指定された期間に利用可能な復旧ポイントを可視化する RPO レポートと、実際の復旧時間と目標の復旧時間の値の比較結果を可視化する RPO レポートを自動生成します。このレポートを活用することで、経営層や業務部門への SLA (サービス レベル アグリーメント) の確保が可能になり、業務の継続性の向上を支援します。

共有フォルダのバックアップ

NAS やストレージ装置でエクスポートされた SMB (CIFS) 共有を、エージェントをインストールすることなく保護できるようになりました。

リカバリ性能の大幅な向上

BMR によるサーバ復旧のスループットが 1.5 倍(*1)以上向上しました。さらに、ファイル単位のリカバリ(*2)が 4 倍(*3)高速になりました。

- *1 平均スループット GB/ 分 (復旧対象のデータ量: 197GB, 増分バックアップ:15 回)
- *2 カタログ作成無効 (デフォルト設定)
- *3 平均スループット GB/ 分 (リストアデータ量: 107GB, 約 6 万 5 千ファイル)いずれも Arcserve 調べ

最新のプラットフォームへの対応

- Windows Server 2016 への対応
- vSphere 6.5 への対応
- Oracle Linux UEK への対応

詳細は、 arcserve.com/jp 製品ページをご覧ください。

Copyright © 2017 Arcserve. All rights reserved. 参照するすべての登録商標、商標名、ゴロ等はそれぞれの所有者に帰属します。

本資料は、情報提供のみを目的としています。Arcserve は本情報の正確性または完全性に対して一切の責任を負いません。 Arcserveは、該当する法律が許す範囲で、いかなる種類の保証 (商品性、特定の目的に対する適合性または非侵害に関する黙示の保証を含みます (ただし、これに限定されません)) も伴わずに、本資料を「現状有姿で」提供します。 Arcserve は、利益損失、投資損失、事業中断、営業権の喪失、またはデータの喪失など (ただし、これに限定されません) 、本資料に関連する直接損害または間接損害については、Arcserveがその損害の可能性の通知を明示的に受けていた場合であっても一切の責任を負いません。